時事新報

農商務大臣の更迭

後藤農商務大臣が辭職の決心は我輩の數日前より聞く所にして政府の情實止むを得ずとは云へ今日の場合に辭職とは取りも直さず民論に對し退歩の實を現はすものにして政府の不利なる上もなかる可しとは毎度繰告したる所なれども情實政府に眞面目の議論は恰も馬の耳に風にして其辭職は昨日を以て聞屆けられ後任は板本樞密顧問官に命ぜられたり後藤伯の辭職は今更ら政方なしとして其後任に就ては過日來誰れ彼れとの風說類りにして或は前内閣の人を以て之に擬するものさへもありしが板本子が意外の邊より出でたるを見れば政府は色々に苦心して候補者を求めたれども所謂入方塞りの有樣にして其人を得る能はず遂に意外の邊に落札したるなどならん情實の情態推して知る可きなり本來を云へば後藤伯既に留む可らずとするも官民相對して一番も輕重す可らざる今日に當りて其後任者を求むるには敢て人撰を誰しみ實際の技倆は兎も角も外に對して重きを成すに足る可き人を得るの注意肝要なるに交迭の結果は則ち他ら方例の如く當座を彌繕したるの形迹自から明白にして前任者の辭職既に政府の缺點を現はしたる其上に後任者の入閣亦一番の重きを加へず只の際に無益の交迭を行ふて外に向て動搖の氣色を示したるに過ぎず政府が民黨に對して頗る決心する所ありと云ふ其決心の始めに於ける擧動既に斯くの如し今後の成行甚だ覺束なしと云ふ可し然りと雖も今回の更迭は昨今の情態容易に後任者を得る能はざるより兎に角に一時、間に合せの手段にして今後政界の機樞次第に切迫すると同時に政府の決心いよ〳〵定まるに至るときは都内の形勢も自から一變して更に再度の交迭を見るの機會ある可し一時の彌縫、忽ち綻びを生じて再び修羅の劍を勞するに至るは今より分り切たるみとにして政府の爲めには其だ不得策なれども其不得策は夫子自からも知らざるに非ず知りながら之を演ずるは即ち情實政府の持病にして何れ遠からざる内に再演の事あるべきならん今度の新任者に對しては只御苦勞千萬の挨拶を呈するの外なきのみ

雜報

○今後の後藤伯　伯の今後に付ては世評紛々として感は再び政治上に大運動を試むる筈にて一大新聞發兌の計畫ありとの風聞さへあるみとなれども差當り伯は斯る運動に着手するみとは無るべく伯は去冬以來持病の胸痛に苦しみ居たれば今度閣散の身となりしを機として暫らく療病の爲め近々熱海邊に赴くべしと云ふ

○農商務省の高等官　意ふ農商務大臣の更迭ありたるに據ては都内の高等官にも多少の變動あるべく殊に事務官有賀長雄氏は本紙の報ぜしたる如く去る二十日を以て免官を爲りしが各局長の進退は如何あるべきの高橋山林局長は此際自分より辭職を申出るが如きみとは無さずとの噂なれども後藤伯との關係淺からざるみとは社會にても認むるのみ爲ち今新大臣榎本子爵を迎へ新しき閣員を選ばるる時は榎本子爵が若しくは轉任すべし例式に者あり併し榎本子は兼て國滑主義の人なれば高橋氏現在の位地に留まりたりとて其間の折合を失するが如き氣遣ひもあるまじければ或は今の儘に居据るやも知れず若宮商工局長も後藤伯の知遇にのりて現在の位置に進みたる人なれば伯と共に進退を決するならんとは何人も想像する所なれども新大臣榎本子が遞信大臣たりし時氏を抜でゝ秘書官と爲し篤く任用したる例しありて薮來の緣故淺からざれば多分無事に居据るべしとの說あり兎に角商工局の事務は農商務省に於て最も大切なれば大臣も局長も一時に新任の人と爲りては多少不都合あるを免かれざるべきに付き假令ひ其更任を行ふ迄も一時は今の儘に爲し置くならんとの說あれば旁々若宮氏の位地には變動なかるべき歟藤田農務局長は如何と云ふに是れも後藤伯の知遇に依りて現在の位地に榮進したる人なれども氏は特に井上伯との關係もある故或は無事なるべしとの說ありしが近頃に至り餘り機敏に立ち廻りたる爲め痛く有力者の氣を損じたりとの噂無きにあらず早川秘書官は有賀氏の免官と共に參事官に兼任したれば大臣の更迭ありしとて今の職を去るが如きみとは莫るべしと云へり

○藤田農務局長の奔走　今の政府部内、少壯にして顯要の地に在るものを云へば藤田農務局長の如きは其一人なるべし氏の近來斯くも榮進したるは後藤伯が遞信大臣たりし頃氏を秘書官に任用したるに其事に處して頗る機敏なるより深く其才を愛し伯の農商務省に轉任するや氏も亦た同省に轉じて文書課長となりしは伯の知遇淺からざりしと知るべし次で一躍して同省特許局長に任じたりしも隨分異例の昇進なりしに其後累進遂に現職農務局長に任じ勅任官に進めらるゝに至りしが是れ氏が機敏の才に依ると雖も而も後藤伯が才俊の士を愛むるに吝ならざるに依らずんばあらず聞く所に依れば氏は今度後藤伯が辭職云々の說起るや四方に奔走し或は大磯に或は東京に機敏の運動を試みたりとの說あり氏は昨日を以て退職したるも氏は現職に在りて位地頗る堅固なりと云ふ

○農務官諮問會　文部大臣は學事上諮問を要するの事あるを以て學務官同道上京ありたしとの旨を各府縣知事に通牒したりしを以て去る二十日迄には各府縣の學務官全く出揃ひ夫々文部省に着国をすたれども同日は何事もなかりし而して知事の會議は昨日より始まりたれども學務官の方は都合ありて知事の會議終結後に延ばす事となり從て其開會期日は未だ判然せざれども多分廿五六日よりなるべしといふ

○各地候補者談

●宮城縣　第一區の村松龜一郎氏は去る十九日を以て候補を辭し遠藤庸治氏に讓るみとゝなりたり

●福島縣　第四區の形勢を聞くに自由、日本協會兩派とも第一の候補者と目指さる〻柴四朗、山口千代作（日本協會派）安瀬敬藏、野澤鶴一（自由派）の四氏共に未だ歸縣せざるを以て候補者擬定會を開く能はず各其領地に固めて敵黨の侵入を防禦し居るに止まれり左れども雙方の候補者右四氏の外に出でざるべきは明白なりと

●茨城縣　第四區より大井憲太郎氏候補者として打て出づべき說ありしも協議の上同氏の一味は前々代議士赤松鋼右衛門氏を推すみとに決し特に自由黨の候補者勤見八郎、齋藤高助の兩氏も國氏に讓る內諾あれば能く爭者は赤松氏と前代議士森隆介氏なりと云ふ

●長野縣　第二區の自由黨員は去る十七日集會を開き前代議士嶋津忠貞氏を擁すみとに決議したりとて自由黨中の重なる者及び各村長等百餘名にて候補者豫撰會を開き記名投票を爲せしに多數を以て前代議士森東一郎氏に決したれば直に同氏に承諾を求めたるに同氏は異議なく承諾せりと云ふ

●岐阜縣　第六區の古屋善藏氏既に運動に着手し近日候補演說會を開くよし自由黨候補者淺見與一右衛門氏は事務所を五個所に設けて夫々運動を始むと云ふ又同區齋藤勤左衛門氏（改進黨）は新候補者たらんと密々手を廻し居るよし

○兵庫縣　第八區の肥塚龍氏は去る十九日龍野町揖玉座に於て政談演說會を開きたるに同氏演說の際中止解散を命ぜられたり依て直ちに懇親會を開きたるに會する者千餘名にて盛會なりしよし●第十區にては自由改進兩黨とも判然たる候補者なかりしが此程自由黨員豫撰會を開きて三名の準候補者より一名を撰び結局佐野助作氏多數にて推撰せられたり又改進黨にては擬集實次郎氏を擧げて自由黨の向ふを張らんと意氣込み居る由

●嶋根縣　第二區にては並河理二郎氏意打て出でたり佐々木、岡本二氏と鼎峙の勢をなすべし●第三區にては猶ほ木佐前代議士辭退の風說ありたるも一派の人々は之を推すみとゝなり既に新聞紙上に廣告したり

●第五區にては一派の人々右田左文氏を推したるも氏は斷然之を辭する旨確答したりと

●岡山縣　第七區の直原守次郎氏は意候補者として打て出で追々活潑なる運動を試ひる模樣なりと

●香川縣　第二區にては前年の行掛り上より交渉を爲して小西氏と林商氏とは孰れも斷念し木村許一郎氏意より出陣に決し各撰擧者も同氏を推すみとに一決して今は木村氏獨占の姿となり形勢全く一變したりと云へり

●埼玉縣　第一區　の前代議士は改進黨の加藤政之助氏なり初め同區内の改進派は分裂して一は加藤氏を推し他は永田莊作氏を撰びて各々候補者となさんとしたりしも斯く同志擧をなせば進退の利は自由黨の高橋安爾氏に歸すべしとの掛念ありしより永田氏は加藤氏に讓りて森に改進派の一致團結を見たり斯くと聞く人々は今回の勝算多分加藤氏に歸すべし想像するに至りしより自由派の高橋氏も最早駄然坐視する能はず遂に本區の前々代議士天野三郎氏と結托する事となれり而して一度此の懸議を始むるや二氏の中孰れが讓り孰れが辭すとも云ひ難けれども抽籤に依りて之を決定する事となりいよ〳〵籤を引きたる處天野氏の當りとなりて高橋氏は潔よく氏に讓る事となりたる由而して天野派と高橋派眞に能く合同一致せば加藤派の苦戰は今より想ひ遣るべく且つ戰の結果は此の連合軍に凱旋の歌を奏せしむるやも知るべからず故に本區撰擧の形勢は此の連合軍隊の堅靭勉否如何に依て變轉すべしとなり

●栃木縣　第一區は星氏と横堀氏との競爭愈〻烈なりんとするの外形勢未だ詳ならず第二區は前回の總撰擧の際接戰一致して新井章吾、岩崎高次郎の兩氏を推撰せしも其後新井氏が雀居尚早派に加はりしより新井氏に背くものあるに至り形勢一變し尚早派は岡氏及持田若佐氏を候補者となせしも遂に新井氏に投票せしもの分れて二派となり一派は星派と稱せらる自由黨派に加はりて田村順之助、中山丹次郎の兩氏を推し他の一派は下野自由倶樂部と聯合し岩崎高次郎氏を擁さ迫て激烈なる競爭を生ぜんとするの傾あり第三區は水村半兵衛氏近頃打て出で安蘇郡北部殊に見田沼寫生の地方を侵略しつゝあれども本區は盤石の如く動かず

●府下第二區　同區の候補者は忠兵衛、渡邊決、基、檜山鎌三郎氏なり基氏は區會議員の中に勢力を有し氏は區會議員の中にあらずとなすに足るものにあらず同區中貴族院議員の組織より歸中有權者の多くは同氏に入れたりと傳ふ渡邊氏の勢力は目下頗りに奔走し居れども間際となりて渡邊氏に讓るべしと云へり

○本野盛亨氏の辭讓　本野氏が未だ氏を推して兩氏の多かりしも是れ迄の兩氏とも氏が今度本野氏は斷然辭退し奔走するみとに決したれば氏みとに覺悟したりと云ふ

○日本橋區の招待宴會　同區の中には再三の撰擧惑ぎ自由でも改進でも政黨上の沙汰も金次第なりと密かに中に流石は東京の日本橋區議士の其當を得たる上は撰擧せんと同撰擧區の有志渡邊治右衛門、安田善四郎、佐々木慎思郎、杉村喜兵衛のより楠本氏宛にて招待狀東中村樓に宴會を催はすよ

○文部省の高等官會　文部省の高等官は去る十九日を以て同十時を以て同港發の郵船に上るよし、船は乘港に向を經、大西洋を渡りて氏の日頃なるべきを以て第六華の用向も相當に拂取るべし早くも入九ヶ月間の日子を

○土地收用法の適用　三崎町に至る延長鐵道の去る夫々約束濟みたるも唯だ者ありしが右は意々土地收に決し昨日左の公告を官報

今般左の工事に關する土地は內閣～たるに付き土地收用法に依り之を

起業者　工事の種類　代表者住所氏名

工事の種類　代表者住所氏名

鐵道敷地　東京府南豐島郡巢鴨町

但　收用すべき土地の種類は官

右の法を適用さるべきは官

由にて本日東京府知事良民

行せしひるとなるべし又群

郎氏見村に幸る個定鐵道敷

人民に不服のものあるとも

とを許せり

○嚴島艦の入渠　章艦

日橋復興の船渠に入るたる